Creating value together

持続可能な社会に貢献することで、コマツも成長できるのです。

社会に価値を生み出そうと思う。
世界のパートナーと手を組んで。
“Creating value together”という決意を胸に。
創立100周年を迎えたコマツが「やり遂げたいこと」をお話しします。

代表取締役社長（兼）CEO
小川啓之

たとえば、「林業×サステナビリティ」。

Creating value togetherに込めた
コマツの思いを植林機の稼働シーンを通じ、
ご覧ください。

「植林から収穫までの循環型の林業」へ。ブラジルで協業をはじめています。

▼紙や建築資材など、生活必需品の原材料となる木は、成長過程で大気中のCO_2を吸収します。木を植え、育て、収穫する循環型の林業なら、気候変動の緩和に、カーボンニュートラルの実現に貢献できる。ブラジルで協業がはじまった「植林の機械化」には、社会的課題の解決につながる価値を生み出したいというコマツの思いがつまっています。

▼炎天下の労働環境、作業の効率化など、人手に頼る植林作業は、多くの課題を抱えていました。私たちは現地の要請に応え、世界で初めてブルドーザーをベースにした植林機D61EMを開発。建設機械で培った技術と経験が、林業という別の領域で活かされる。それは困難な、けれど、やりがいのある仕事です。

植林の機械化というハードの開発と、建設現場で培ったデジタルトランスフォーメーション（DX）の融合を。

▼植林は2台の機械の連携で行います。まず、地ごしらえをする機械が地面を整え、植林の下準備をする。そのデータを受け、植林機D61EMが苗を植え付けます。これにより、1時間で900本という高速で高精度な植林を実現。また、全地球測位システム（GPS）で植林位置を記録することで、将来の収穫の効率化も可能にします。いまブラジルで実践している植林の機械化を今後世界に展開していく予定です。

▼循環型林業を実現するには、機械化だけでは足りません。植林・育林・収穫のすべての工程に、建設現場で進めているDXを導入。林業現場に「新たな価値」を創りだす取り組みを一歩一歩進めています。

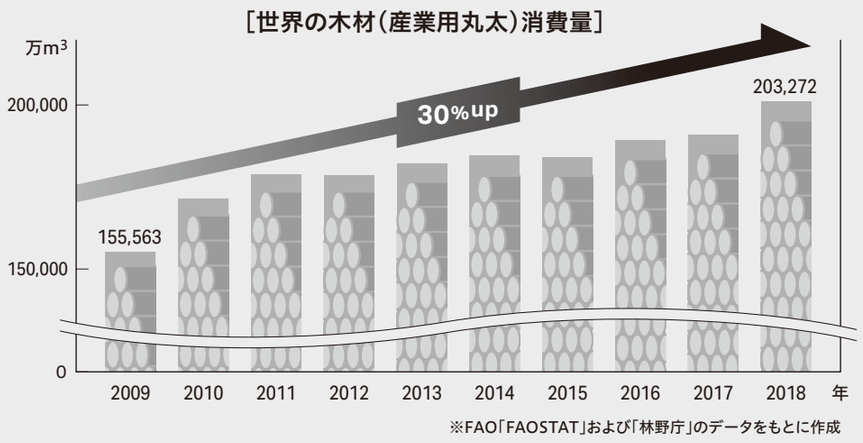
スマート林業という新たな領域へ挑む。「持続可能な社会の一員」であるために。

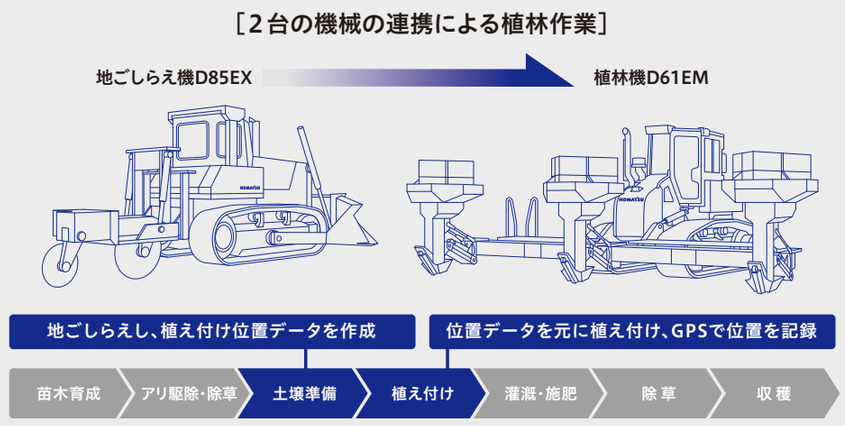
▼「本業を通じて社会的課題を解決する」ことは、コマツの大切な使命です。それがやがて我々の成長にもつながる。そう信じているからです。

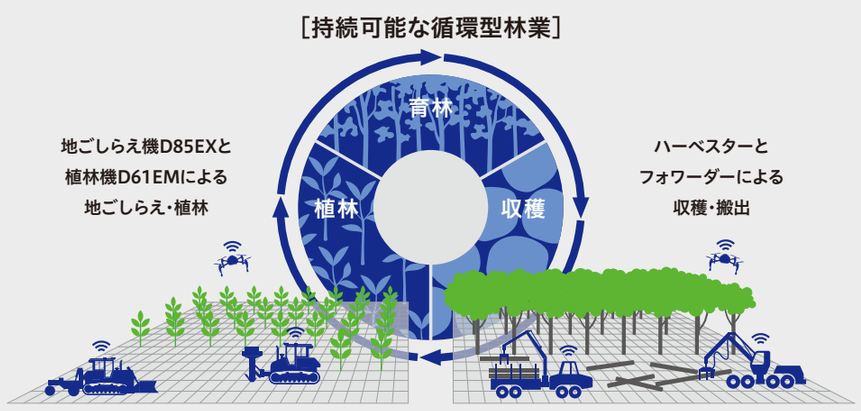
▼建設機械で培った技術やノウハウを林業という新たな領域で活用するのもその一例。将来はブラジルでも、林業のあらゆる工程をデジタルでつないだ、「スマート林業」を進めていくつもりです。森の密度も、木の高さも、ドローンで「見える化」、市場で必要な木の種類も、長さも、機械にデータを送るだけで済む。そんなソリューションを提供し、生産性の高い林業の実現を目指します。

▼業種を超えた、世界中のパートナーとタッグを組み、社会的課題の解決に挑む。だからこそ、お客さまに、社会に、これまでにない価値を創造できる。

ものづくりと技術の革新で、新たな価値を創り、人、社会、地球が共に栄える未来へ。次の100年に向けた、コマツの決意です。







KOMATSU
Creating value together

100th Anniversary

「こまつの杜」に、100年の歩みを振り返る拠点、「歴史館」誕生。

コマツの技術を間近にする超大型油圧ショベルPC4000の展示、子供たちのものづくりや自然への興味を育む「未来館」の新設。創立100周年を機に、「こまつの杜」が生まれ変わりました。

リニューアルした「こまつの杜」をご覧ください。

コマツ 〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6 https://home.komatsu/jp/